平成30年度学校だより
善誘館 NO．8
H30．11．7
甲府市立善誘館小学校　校長室

校　訓　　「善行・勤勉・体育」
学校教育目標
○　思いやる心をもつ子
○　よく考え工夫する子
○　元気でたくましい子

安全を守る避難訓練～火災を想定～　「すべては子どものために」

学校教育の中で，児童の安心・安全を守る活動は最重要課題です。防災や防犯をはじめ，交通安全，日常の健康管理と怪我の予防，更にはいじめ防止等による心の健康を図り，全ての子どもが安心して過ごせる学校・学級づくりに努めております。

先日は，火災発生を想定して，校庭への迅速な避難や消火器を使用しての訓練を南消防署員が見守る中で実施しました。児童はハンカチを口に当て落ち着いて校庭に避難することができました。教員は分担に従い，児童を安全に誘導すること，逃げ遅れている児童がいないか点検をすること，消防署へ火災発生を通報すること，鎮火に向けた消火を行うことなどを訓練しました。

南消防署員からは，私語もなく整然と避難できたことや日頃から真剣に訓練に参加する大切さが話されました。

空気が乾燥し火災が発生しやすい時期を迎えます。火の取扱いには十分留意するとともに，子どもたちには「自分の命は自分で守る」ことを意識させていきます。

【消火器を使った消火訓練】

地区文化祭～感性と交流を育む機会～

１０月２１日に琢美地区文化祭，１１月４日に富士川地区文化祭が開催され，両地区から開会式に来賓として招待を受け，発表や展示を見る機会をいただきました。

発表部門では，舞踊，体操，合唱，ダンスなどが披露され，展示部門では，書道，絵画，写真，華道，手芸などの作品が出品されていました。本校児童の絵画や習字の作品も展示してしていただくとともに，舞踊やフラダンスを大人と一緒に踊る姿や講師から手ほどきを受けた児童の生け花作品があり，その頑張りをうれしく又ご指導をありがたく感じました。

それぞれの地区には長年に渡り様々な文化や芸術に親しみ育んできた歴史があり，その活動を子どもたちが受けつぎ，感性をより豊かにしてほしいと思いました。

愛校・愛町作業～縦割り班ごとに～

秋も深まり木々が赤や黄色に色づく紅葉の季節を迎えています。今年もこの時期に「愛校・愛町作業」として，縦割り班に分かれて，児童と教員で校庭やふれあい公園の清掃活動を数回行っております。いつも使っている場所がきれいになるように，落ち葉をほうきで掃いたりゴミをレジ袋に入れたりして，みんなで力を合わせて清掃活動を行っています。

読書の楽しさ素晴らしさを感じながら

日一日と秋の深まりを感じる季節となりました。昔から「灯火親しむの候」と言われる時期でもあります。本校では，１１月７日（水）～１１月２８日（水）を「読書週間」と銘打ち，本にふれる取組みを多く設定し，読書の楽しさや素晴らしさを知る機会といたします。具体的には，１学期から続いている読み聞かせボランティアの方の取組を始め，全校児童と教職員による本の紹介カードの作成，甲府市立図書館の方による「おはなしキャラバン」，図書委員による読み聞かせ等が予定されています。

子どもたちには，本に親しんで，知らない世界に触れたり想像の世界を広げたりしてほしいと願っております。また，数年前から，家庭で親子で読書に親しむ「家読」の取組をお願いしております。

是非，ご家庭においても「灯火親しむの候」，テレビを消して親子で楽しく読書に親しんでみてください。

□□ 読書に関する興味深いデータ □□

先日，ＮＨＫ番組の「ＡＩに聞いてみた　どうすんのよ！？ニッポン」を見ました。この番組は，人工知能（ＡＩ）を駆使して日本が直面する課題の解決策を探るシリーズであり，今回のテーマは「健康寿命」でした。「健康寿命」とは元気に何歳まで過ごせるかを示す値で，**山梨県は全国で一番「健康寿命」が長い県**として紹介されていました。日本全体では「平均寿命」との差が，男性で９歳，女性は１２歳もあり，その間，寝たきりや介護状態などで暮らしているそうです。

健康は，病気などの直接的な要因だけでなく，その人の食生活や趣味，家族関係，地域環境など，様々な要素が絡み合っているものです。今回の番組では，６５歳以上の日本人４１万人の生活データをＡＩが学習し，老後も健康な人がしていることを導き出しました。

皆さんは，健康な高齢者がしている健康要素は何だと思いますか。適度な運動，バランスの良い食事，規則正しい生活等と答える方が多いのではないでしょうか。しかし，番組ではＡＩがそれらを抑えて，**『本や雑誌を読む（読書）』ことを多くの健康な高齢者がしている**と導き出し，その結果には専門家も驚いていました。

番組では，健康寿命の高い山梨県を訪問して，その謎を突き詰めていきました。意外なことに，山梨県は運動やスポーツの実施率では全国で下位でした。目立つのは公立図書館の多さと充実ぶりで，**山梨県は人口１０万人当たりの図書館数が，6.59館と全国平均の2.61館を大きく上回りダントツの全国１位**でした。山梨県立図書館には多くの県民が訪れており，昨年度の利用者は９２万人で県の人口の８６万人を上回っていました。そこで，利用者に取材が始まり，ある男性は広い館内を本を探し歩いて，知らぬまに万歩計が午前中だけで３５００歩を越えていました。旅や歴史の本，俳句や医療の本など５冊も借りていた方は，知的な刺激を受けることが大事だと感じておられ，自宅に帰り旅の本を見ながら２０年前の旅行を思い出して，記憶が呼び覚まされるお陰か，物忘れも少ないと話されていました。

番組に登場した大学教授も，「心が動くと体が動く。本や雑誌を読むことは，行動を起こすきっかけを与えてくれる」とコメントしていました。

更に山梨県への取材で，**学校司書（図書室専任の職員）の公立小学校への配置率が，98.3％と，全国平均の59.3％を遥かに上回っている**ことが判明しました。山梨県では，昭和２０年代から積極的に学校司書を配置し，読書に取り組んでいることが紹介されました。この流れが本の読み聞かせに繋がっているようだとコメントされていました。

また，先日の新聞報道によりますと，2015~17 年家計調査の結果，甲府市は雑誌を除く**「書籍」の年間支出額が，全国の県庁所在地など計５２都市で２年連続で最も高かった**と伝えられていました。雑誌を除く，単行本や文庫本，図鑑や絵本，漫画本などの書籍の購入額は前年に比べ７１０円増の１２,４９１円で，全国平均を４,７７３円上回っており，この調査からも読書に親しむ県民性をうかがわせる結果となっています。